

分山先生上書

文久三年戌十月



公は天下の政向を憂ふ事非私欲也
得共天下の事は是迄多年貯る居た
共上書は度々成さず天子何所其
公事と 何被成下且右書草案
御内覧も被成下なる

奉神 此我者も内願して奉備

御内覧度事も存在し我は度々憂

思ふよを斯く 御内覧も被成下事

天下の形勢尚大切被

思ふよを 為出御事と深く難有貴

は我は度々但當今迫切の時節

御大政の教を言上せひ

御自國の御事向義一向事御事

其の内の田をすく人の田は云

是又深く事恐る義且此度

公は御常被 御出御度就

當門政事向若新の流弊の改革

御施設不仕方存て被方御間敷事御

當門政事の上にお寄る事共書御

大馬の事を三度一國を憂ふ事の誠

思ふ 御事御被成下事御

御國家の事も事存し我は度々御

御事御

御上御 御安心被

思ふ御 御不安心被

思ひ御 御可也

思ふ御 御不可也

思ふ御 御不可也

思ふ御 御不安心被

思ふに不可しは
思ふに不安心被

思ひて一日し 不安心被
又又不可也

思ふに不安心被
思ふに不安心被
思ふに不安心被

思ふに不安心被
思ふに不安心被
思ふに不安心被

思ふに不安心被
思ふに不安心被
思ふに不安心被

思ふに不安心被
思ふに不安心被
思ふに不安心被

思ふに不安心被
思ふに不安心被
思ふに不安心被

思ふに不安心被
思ふに不安心被
思ふに不安心被

思ふに不安心被
思ふに不安心被
思ふに不安心被

思ふに不安心被
思ふに不安心被
思ふに不安心被

思ふに不安心被
思ふに不安心被
思ふに不安心被

思ふに不安心被
思ふに不安心被
思ふに不安心被

思ふに不安心被
思ふに不安心被
思ふに不安心被

思ふに不安心被
思ふに不安心被
思ふに不安心被

思ふに不安心被
思ふに不安心被
思ふに不安心被

思ふに不安心被
思ふに不安心被
思ふに不安心被

思ふに不安心被
思ふに不安心被
思ふに不安心被

思ふに不安心被
思ふに不安心被
思ふに不安心被

思ふに不安心被
思ふに不安心被
思ふに不安心被

思ふに不安心被
思ふに不安心被
思ふに不安心被

心安ん可被

思ふ可也やをくと左近に被

思ひし今虚飾とん

山身自を糊塗存りのソせよ、お遠有が

かゝる実命、自に左ありのほど、高申す我

を、左ね、さし、は、即、整、申、の、水、を、這、い、金、

目、ぬ、く、の、め、の、み、を、手、石、保、ひ、し、者、つ、付、

是、こ、も、國、の、大、事、也、し、り、す、ま、き、罪、人、早、

即、除、き、不、出、く、具、害、終、不、可、測、也、可、申、

間、つ、子、種、つ、自、付、者、床、の、用、節、を、ん、て、我、

罷、進、し、前、未、し、我、辨、論、に、可、被、

仰、付、左、と、私、我、の、自、付、目、前、於、て、言、下、り、

お、一、言、半、句、口、を、向、を、り、古、更、方、共、此、

の、と、を、孝、期、同、亦、を、り、方、正、嚴、重、

仰、付、永、く、家、中、に、大、戒、を、申、お、者、を、存、

妙、秘、此、度、斯、く、も、敢、言、は、い、是、と、の、以、何、

を、い、實、に、容、り、易、か、ら、し、ま、し、國、家、に、大、事、

仰、精、神、を、申、奮、興、を、進、

仰、目、背、は、は、方、被、て、

御、御、覽、に、成、下、候、は、度、孝、願、仰、り、し、を、

人、君、の、御、職、分、に、賢、相、を、向、を、り、て、第、一、

宰相の職を、君を正すを、第一、此

二つの者、その職を、失ふ、時、治、體、止、り、

朝廷尊、し、り、申、し、候、

宰相の職を、家老職、即ち宰相の職、を、

然、し、以、家、老、共、治、體、の、本、原、を、明、し、徑、世、徑、國、

の大、方、の、道、一、實、也、

仰、上、の、御、徳、道、を、正、し、事、を、り、の、と、を、申、し、

を、身、と、容、れ、ん、

君、の、寵、を、因、り、恨、を、の、つ、後、と、失、ひ、し、ん、て、憂、

ひ、り、の、を、い、は、し、ま、し、上、進、未、亦、弱、年、に、文、

就、武、就、一、身、の、修、業、を、申、し、不、り、申、す、し、

民、部、ト、一、篇、の、道、徳、を、申、し、

就武就文一才の修業を以て不り使年一才
民務一才一才の通曉せる我を以て考を
少引きて其の才家老職被

御中星行等の才政事一才を以て其の才
才の官任一才の大徳を農務を以て其の才
を以て其の才一才の才一才の才一才

水出の才精一才の才一才の才一才の才
はりよの才一才一才の才一才の才一才の才
大徳一才一才の才一才の才一才の才

衆出の才一才の才一才の才一才の才
考績の法一才の才一才の才一才の才
を以て其の才一才の才一才の才

天下國家の政治行爲を以て其の才
所文武を以て振興一才の才一才の才
其の才一才の才一才の才一才の才

任と精一才の才一才の才一才の才
政治を人々を以て其の才一才の才
人々一才一才の才一才の才一才の才

是を以て中庸一才の才一才の才一才の才
樂毅此才一才の才一才の才一才の才
其の才一才の才一才の才一才の才

其功績一才の才一才の才一才の才
人の才一才の才一才の才一才の才
其の才一才の才一才の才一才の才

其の才一才の才一才の才一才の才
其の才一才の才一才の才一才の才
其の才一才の才一才の才一才の才

其の才一才の才一才の才一才の才
其の才一才の才一才の才一才の才
其の才一才の才一才の才一才の才

其の才一才の才一才の才一才の才
其の才一才の才一才の才一才の才
其の才一才の才一才の才一才の才

其の才一才の才一才の才一才の才
其の才一才の才一才の才一才の才
其の才一才の才一才の才一才の才

道德の教を説いて西洋之天文地理萬物の理
 學をも兼ね當世の時務に通一術を用ゐり
 義をも得んツレバ其の所ては文教振り、
 又其備へし子弟のウに劍槍を授けり、
 一、一、武具考行の調申す、
 杖教四角形武具考行の
 武具考行の調申す、
 杖教四角形武具考行の
 武具考行の調申す、
 杖教四角形武具考行の

又其備へし子弟のウに劍槍を授けり、
 一、一、武具考行の調申す、
 杖教四角形武具考行の
 武具考行の調申す、
 杖教四角形武具考行の
 武具考行の調申す、
 杖教四角形武具考行の

又其備へし子弟のウに劍槍を授けり、
 一、一、武具考行の調申す、
 杖教四角形武具考行の
 武具考行の調申す、
 杖教四角形武具考行の
 武具考行の調申す、
 杖教四角形武具考行の

又其備へし子弟のウに劍槍を授けり、
 一、一、武具考行の調申す、
 杖教四角形武具考行の
 武具考行の調申す、
 杖教四角形武具考行の
 武具考行の調申す、
 杖教四角形武具考行の

又其備へし子弟のウに劍槍を授けり、
 一、一、武具考行の調申す、
 杖教四角形武具考行の
 武具考行の調申す、
 杖教四角形武具考行の
 武具考行の調申す、
 杖教四角形武具考行の

又其備へし子弟のウに劍槍を授けり、
 一、一、武具考行の調申す、
 杖教四角形武具考行の
 武具考行の調申す、
 杖教四角形武具考行の
 武具考行の調申す、
 杖教四角形武具考行の

其精密具人をも有るは、其家中勿論此
國をも令其儀の半學をも心局、若し有るは、其
形儀當時

公邊、其知をも、其少と在るを、日陰の、其

只今借受け、其儀の、其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

其少と在るを、日陰の、其

不肖の臣は其人を以て有徳の者を生きて
即ち上り程の聰明

才智の過る者も法を振ひ下り夫故明君
必大賢相を擇み用ひずらば此適切の時節
を成す所を別し

この國の不安危しと與替し其人を以て有徳と
謂ふは由り多し事なり其家共

を以て必し世禄を舊臣に与へて可く初めと
管仲植字の仇にりし是を用ひて其罰の

第一に成り樂毅を魏人にし燕の昭王を
を用ひて世に大功あり由余素人にし

此れを用ひて西戎を覇し水蜀の先とし孔明
を存初し通の言は度具他和漢し風雲會

を乘し勃興し人なき者其臣下皆舊臣にして
其臣なきを以て形如く各其忠義を得小友

臣下の忠義多く上の恩遇出さず善は就
賢能不習千人勝りよの浪人他家

の名家共其苦しんは是と天下を求め其
應へ厚く以て禄仁を賜り

政事の以て南漢
して和漢古今并し世界は善し形勢の柔剛

止是迄舊勳の法弊を除脱と永世
の率由り方口庄の邦典とを力立

の政事の維新あり事始あり生度奉り新奉
り

の恩遇は法して不忠はさすく況や其人賢者
の序もや其今越前家て大い用事横世宗師

の優待の存あり當時の形勢より早く以て水
の年と事多し春徴極し

天朝より人の送らる大程の方なりつれ
の非常し事多し其の家中の妙一人と世禄

なりし生殊なり大福を以て能く在りし
其即行檢禮義廉耻の

時、私利の者、公義を以て害し、風俗を以て成はざる
り分て是又世禄の臣とあり其忠義を以て

望風を以て起し、自

望風を以て起し、自

一、齊桓公之官仲、學之也、晉文公之舅犯

孔子之大聖、雖七十有五志學、每十年、正進歩

及以、聖賢院此、此、序況や其他、推し、學を

一城のまゝ其世子は、よる、子、問、出、指、る、ね

其法、序、す、て、大、戴、禮、中、の、保、傳、傳、則、る

夫、序、序、初、儀、此、所、而、見、る、序、ひ、ね、

御、上、而、初、推、は、る、序、序、御、序、序、高、の、序、儀、

て、序、建、言、は、る、序、序、序、序、序、序、序、序、

序、序、問、の、序、甚、序、序、序、序、序、序、序、序、

序、相、手、の、序、の、序、大、儒、碩、師、

序、下、序、序、業、は、序、序、序、序、序、序、序、序、

俊、士、と、序、序、序、

序、講、者、序、序、序、序、序、序、序、序、序、

序、生、序、序、明、敏、は、序、序、序、序、序、序、序、序、

序、序、序、問、の、序、序、序、序、序、序、序、序、序、

思、序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、

序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、

序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、

序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、

序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、

序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、

序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、

序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、

序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、

序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、

序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、

序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、

序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、序、

友に家中の以文教自修感動子弟の文
 學に教時不憂面自を草の下の草に
 足角離群素に於るを過ち多く獨學すは
 因陋なす一むしを先哲の名を存し何れも
 師友も天下の志のなきも本當人最大の
 先緒を考ゆ子而子湯の伊予に於て學んで後
 此れを後とす故に皆んを王たる極之の正仲
 たる學を後とす此れ我臣を故に皆んて覇
 能其國治者も中邦漢にも古きを今に與るも
 未だうて有る我に於て此切實の時節
 國政の義政に即ち直の正氣を以て志

河村正不の存て、寛政の世も小宮友清の大雅、
 天の方激す、然世にたるも、吾も、此義、
 孝行世に、心後悦、義、ト、中、は、心後悦、
 信、是、正、の、風、流、り、生、何、ん、斯、く、を、亦、此、
 場

河村正不の存て、河村正不の存て、河村正不の存て、
 報とと瘰、しん尚書説命、り、藥照眩、
 は、厥、疾、瘰、え、ん、り、す、此、義、を、考、ゆ、ん、去、見、も、
 兼、醫、理、通、達、て、能、病、因、症、症、明、其、對、
 症、の、藥、を、施、其、け、兩、も、其、を、考、ゆ、ん、
 病、も、瘰、え、ん、り、希、て、其、病、を、深、く、一、人、以、
 殺、す、る、を、考、ゆ、ん、下、り、度、間、生、又、其、良、國、を、
 被、る、求、も、急、務、の、上、の、以、急、務、と、考、ゆ、ん、其、奉、
 胃
 河村重義深く孝思懐、獨去忠情の所激自、
 止の事能た遂極言せ、義、
 河村重義の上
 河村重義深く孝思懐、獨去忠情の所激自、
 止の事能た遂極言せ、義、
 河村重義の上

十月廿日



尚公下思、考、ゆ、ん、不、憚、に、詳、極、言、せ、義、
 河、一、覽、は、感、下、考、ゆ、ん、上、
 思、
 河、一、覽、は、感、下、考、ゆ、ん、上、

尚公下恐毒事与有不憚正諱極言其
一覽は成下軍上

思召らるる
御事用し難成なる

思召らるる御事用し難成なる
別紙上書稿一同
封とらる

下下上上成下上上極事願存存直極火中は
此を減し極仕度事存存御過るるを極に

御内覧は仕存存下上上通 皇國の御
二十餘年前も天下億兆の人先天下の

御大計共御度及建言の御又其御依
公邊の御を御と何處 御手紙難成

恐る御共天下の形勢も半過ぎ御儀の御
通御成の御天下後世、恥ぢる御と

御國家を御と御事、御聊不事御但
感應院様を御

御春願も御と御事、御
御供恩拜戴御在御、御事御人
御心入御事御存存

御繼體の御御、御事御我と御
御共、御書死カ

御同院様、御方の御報 恩は御御
御存存、御共御事、御事御果さん

御下上御事、御久お伏望御事、御遺憾
御共、御事、御御、御一時

御感應院様、御加判、御
御引際、御人の御ひ、御御常の御事、御事

御我、御事、御水晴山、御れ、御御言、御
御事、御事、御事、御事、御事、御事

御思召らるる、御事、御事、御事、御事、御事、御事

御公邊の上書、御成、御成、御成、御成、御成、御成

御御、御事、御事、御事、御事、御事、御事

御御、御事、御事、御事、御事、御事、御事

御御、御事、御事、御事、御事、御事、御事

御御、御事、御事、御事、御事、御事、御事

御御、御事、御事、御事、御事、御事、御事

り厚き者や若又毒中一とて身命是止の所宿
葬号保く

の感懐に世に毒極言く我共千理方よ
思ひしを成下

の聴納に助し追ひしも密に
仰出此等山が判別し入且従来 山親類換

の儀に助し追ひしも密に 山親類換
の相換は右在天下の復傑をいひおぼえ

の政事向の復新を存揚有るを存の儀に
毒れ板倉極の身山田安五郎トありけり

卑き所も出老のり一とて博字強記事
務に疎く人水野極も塩谷甲山成トありけり

是れ隨て用立下人物に存老毒の老三五
年ハ倍々まけに也

の學問のうをいひ政事のみをいひ也に相應
の益有るをいひ毒妙に中人共此の時益極

難計毒れ浪人儒者藤森若ゆトありけり
徑學詩文手蹟等止大抵出書ありけり其著

り海防備論一題一書一讀をいひ所當の時務
於て迂陋を極め是等の若也

の政事のみ相換等に出出毒れ我の序私塾長
御旨の事九年ハ成り既ハ學術大成期年ハ

の廣く天下に名求むる後あり夫止名も存しぬ
後生等とけく校列し後傑と有るに存けり其

人などいふ得る事通くし先務の又先務
毒れこよ

毒れこよ

右象山先生文久ニ壬戌年十月廿日直由公

上る事也 此長文一字の誤取無く謹嚴周密一氣呵成の述

歴然の然き昔年老を主膳官の際誤り巻改り筆を自
明治四十二年四月十七

孝行板倉極の身山田安五郎トあり侍
 卑き而も出老の... 博學建記事
 務に疎く、水野極、塩谷甲成ト其...
 是隨て用立下り人物に在る者、三五
 年、借まけ...
 了蓋有つて、孝行、但中人共此の時、
 難計、孝行、浪人儒者、藤森若...
 経學詩文手蹟等、正大抵出...
 行、伊... 九年... 既、學術大成、
 後生... 後傑... 其
 人... 孝行...
 孝行...

右象山先生文久ニ壬戌年十月廿日直田公

上る事や

此長文一字の誤取無く謹嚴周密一氣呵成の述
 歴然以然、昔年老先生騰富の際、誤り巻致す、

明治四十二年四月十六

五十五番 點堂 三田 革子 成



象山先生上書

文公三成二日



御勅宣より相付奉拜見趣意存申義者
多不孝匡救此迫切の侍所

君相折角の鋭志又許す弊病とせし
配は 自國の爲に天下の一體は天下の弊端を
孝匡救の即ち 自國の爲に孝行故存意存申
起草は自國の身を以て

公達上書に相付ひ下り親類もくつ角著と
同、公達上書に九月十日の義は存ひき
時、遅延と考へし厚居の身分

仰出、以次第承知り我々の義を
猶固も届及時催信ト云、九月内迄有年
ゆ供そ十月二十日を上書成るを

いさよ 仰出、以次第、猶固も、右の果
及び、以次第、仰出、以次第、我々の義を
親類もくつ角著と云、七月迄

仰出、以次第、三月迄、我々の義を、上書の義を、
先くも防海の計、其後毎言説、
此度は切迫の侍所、匡救の由上書、其時、
公達、仰出、以次第

公達、仰出、以次第、我々の義を、上書の義を、
先くも防海の計、其後毎言説、
此度は切迫の侍所、匡救の由上書、其時、
公達、仰出、以次第

公達、仰出、以次第、我々の義を、上書の義を、
先くも防海の計、其後毎言説、
此度は切迫の侍所、匡救の由上書、其時、
公達、仰出、以次第

伊出、振事願ての上

昨今傳聞り、この春嶽極の巻

城下の首をたつて居る狼藉ありありの向ひま
く、江、故郷の外に居るを、う馳込の遊寸成其
の居るより、益々固人数多うて、帰籍の志極
た上書の義、西急サも早くは、ト、是等の義、要て深
く記す、故郷の座、友等の事有して、つ出逢ふ
つ、恥辱とて居る天下のつ耻辱、い常、即外國人の形
やく入に居る存、所、傷、
つ政體の種、あつれ、子世界、萬國、の調え、世界、萬國
の輕侮、も、つ、同、帝、の成、天下、身、を、つ、振、兵、存、
此、義、も、深、く、奉、氣、事、故、上、書、の、首、

つ、覽、と、政、成、の、通、を、つ、供、連、の、相、當、有、は、居、る、な、り、我
つ、寧、ろ、反、席、を、と、願、つ、た、形、の、か、認、つ、我、さ、居、る、な、り、
つ、取、初、を、建、つ、つ、取、初、成、り、事、な、き、以、前、春、嶽、極、以、
つ、後、く、し、つ、と、心、傷、も、あ、り、事、と、未、終、防、て、人
つ、知、り、た、天、下、の、つ、大、益、一、方、を、居、る、を、賜、く、五、十、り、七、十、
つ、の、邊、迄、と、い、は、れ、を、折、角、の、忠、志、と、六、日、の、芳、蘭、の、あ、り、
つ、積、念、と、極、奉、事、つ、つ、介、の、あ、り、つ、つ、供、連、の、教、丁、字、反、
つ、面、後、の、議、論、と、此、座、の、思、中、付、同、行、て、つ、つ、よ、り、つ、後、を、
つ、深、く、あ、り、知、り、其、後、の、事、の、と、を、い、は、れ、可、い、際、の、間、を、
つ、つ、つ、つ、つ、先、た、し、と、時、後、き、つ、其、勝、劣、を、
つ、あ、り、事、の、此、座、は、故、智、者、と、毎、日、極、冷、後、也、
つ、つ、つ、つ、つ、積、念、の、我、の、事、を、上、書、草、稿、を、其、の、事、具、
つ、つ、つ、つ、つ、前、

つ、つ、つ、つ、つ、先、見、用、意、の、透、り、つ、つ、つ、つ、
つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、

十一月二十二日

天向傳程

前日別封中奉申、つ、つ、程、奉、申、上、張、一、我、は、居、る、付、下
つ、つ、つ、書、申、上、

つ、家、の、高、の、義、書、を、二、三、十、万、石、の、成、は、居、る、と、天、下、の、事
つ、つ、つ、一、之、座、の、つ、働、し、つ、為、出、易、く、も、當、り、高
つ、別、つ、込、高、石、と、を、居、る、所、を、何、事、も、つ、一、分、の、事、
つ、出、来、ま、し、小、難、く、し、後、に、し、つ、つ、も、思、意、奉、事、し、つ、智
つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、

別は此高きとそを所て何事し中一分の事
出さざれば難く、誰しとせしも悪意奉り、智
謀勇果の士有、能く任畫けり天下、敵有りトす
半、此とありトす、事ゆり、此度、中央諸藩
也、其の兵制二十歳より三十九歳との仕下とを
事し、此の廿歳より三十九歳までの仕下とを
兵制六分の一者、その六分の一の半を以て
車定法は、此度當時、山領の生齒、故、其
ト、承り、其内、女子の方サ、多く、男子の
六分、見成、キ、人、その目、年齢の仕下、其
半、則、五千人、は、左、當時の、家中、士、卒、令
其、術、兵、六千の兵、優、出、ト、古、一、人、奮
士、十人、對、す、十人、百人、對、す、百人、千人、
對、す、千人、百人、對、す、十万人、天下、越、ト、
山、領、の、民、口、も、は、兵、人、と、出、す、ま、ん、も、
其、半、過、き、術、を、以、て、鍾、慶、馬、駟、果、して、奮、死、の
兵、力、成、り、大、い、る、者、す、あ、る、ま、で、一、申、さ、て、ま、
敵、ト、す、半、ト、す、半、ト、す、半、ト、す、半、ト、す、
越、ト、す、ト、す、漢、出、大、國、の、積、り、方、本、邦、を
比、例、積、り、本、邦、の、六、千、人、漢、出、の、三、万、も、
ト、ト、左、ト、山、國、に、人、向、向、の、名、思、に、
但、此、兵、數、と、あ、る、ひ、方、の、財、力、を、以、て、是、智、謀、の
士、の、徑、畫、運、算、を、要、す、所、は、此、度、作、去、民、の、天、の、生
す、可、し、人、力、の、を、何、れ、難、任、所、は、度、六、千、の、兵、の、出
て、可、中、山、地、と、あ、る、天、と、あ、る、財、
人、の、生、す、所、は、其、人、と、あ、る、為、向、と、お、の、つ、は、
一、方、を、奉、り、但、當、今、の、世、智、謀、の、士、有、り、
一、と、ま、の、山、西、縁、を、増、一、の、中、出、兵、數、
衆、人、の、知、所、の、外、妙、の、手、段、は、
勝、手、極、難、の、事、は、休、平、素、家、の、衣、食、
皆、衣、食、位、は、ま、く、其、子、弟、文、武、の、業、
山、世、は、有、り、ま、を、及、り、兵、技、の、
一、は、ま、り、但、當、今、斯、の、時、常、に、
昔、ト、かく、此、國、卒、伍、を、一、甲、兵、を、
伍、を、一、甲、兵、を、備、の、此、國、政、
國、守、禦、の、備、を、設、け、
山、勢、の、序、を、ま、く、
山、志、を、四、言、
節、柄、天、下、諸、國、皆、富、國、強、兵、の、計、を、成、り、

衆人の知所の外、妙の手段は、たゞり、ついで、一家中
 勝手極難の又、小俗に平素、家内衣食、報、若、身
 皆衣食位、是、ま、く、其子弟、文武の業、出、精、出、ま、り、
 門、世、任、有、ま、る、を、乃、り、ま、り、兵、技、の、有、増、し、は、
 り、ま、り、但、當、今、斯、の、時、常、付、出、仲、の、極、に、
 告、て、ま、り、此、國、卒、伍、を、一、甲、兵、を、備、へ、他、國、に、平
 伍、を、正、し、甲、兵、を、備、の、此、國、政、令、の、具、を、成、し、他
 國、に、守、禦、の、備、を、設、け、な、れ、し、し、六、千、の、奮、死、の
 心、勢、を、存、し、し、ま、る、と、ん、て、速、し、

而、志、を、四、さ、得、さ、し、れ、し、し、容、易、難、し、ま、り、去、り、時
 節、柄、天下、諸、國、は、富、國、強、兵、の、計、を、成、し、勢、が、成、り、
 而、自、保、つ、計、は、果、然、し、
 而、政、令、向、是、れ、し、
 而、更、張、不、ら、ぬ、在、り、難、し、
 爾、來、け、自、然、

而、家、於、て、の、此、切、迫、の、時、勢、の、中、遊、心、を、以、て、執政
 大臣、其、人、あ、ん、是、の、如、く、意、後、挽、從、の、風、道、し、士、氣、
 奮、ん、器械、も、調、へ、大、精、し、ん、道、取、の、計、策、も、な、り、
 困、窮、の、時、口、を、過、さ、や、し、ら、る、天下、騷、擾、の、せ、し、お、成、り、
 下、恐、檢、石、の、計、極、し、決、て、出、で、け、し、
 其、身、言、を、な、し、し、殊、以、て、惶、恐、の、を、奉、ゆ、し、
 而、國、家、の、儀、容、を、大、切、奉、ゆ、し、不、取、便、本、中、に、
 我、ら、を、何、れ、し、
 而、志、氣、を、な、り、奮、奮、

而、作、新、の、所、政、は、在、る、奉、企、望、首、名、醫、扁、鵲、
 秦、の、武、王、見、り、常、武、王、面、部、病、患、あ、り、ま、り、
 處、扁、鵲、本、し、な、り、廢、以、し、
 臣、ま、り、言、を、な、し、し、ま、り、不、迫、臣、皆、安、ん、ん、王、の
 病、目、の、前、目、の、下、し、し、れ、を、除、く、も、容、易、あ、ん、且、身
 を、一、で、聽、か、る、目、を、一、で、暗、し、
 ず、し、ま、り、又、扁、鵲、告、け、し、し、所、扁、鵲、也、そ、の、鍼、を、得、ず、
 ず、し、ま、り、君、初、し、の、し、し、れ、を、謀、て、知、り、し、
 し、れ、を、敗、り、斯、く、て、秦、國、の、政、令、推、し、
 一、此、扁、鵲、の、言、を、易、の、名、論、に、な、り、侍、常、柄、扁、鵲、の
 言、を、深、く、

思、ふ、は、彼、乃、扁、鵲、願、上、候、也、

大臣其人ありん是との如く是後、牧野の少風道と士氣
奮然器械調ん精一くん道取の計策もその
困窮の時口を過ぎさるる百の天下騷擾のせしむ成り
下忍捨つ石の持極決して其のくく其は甚元は
奉存の言葉なひ、殊に以て惶恐のぶ、奉中し
の國家の儀實り、大切、奉中し、不取儀奉中し
成るるを伺ひし
即ち氣を奮奮
即作新の内政は、在る奉企望、昔名醫扁鵲
秦の武王、見り、前武王面部、病患あり、と云ふ
處扁鵲自ら、瘡を以て、即ち、武王左近
臣、手をも、治り、を、左近臣皆安ん、王の
病目の前目の下、を、れを、除く、と容易あり、且身
を、以て、聽か、る、用を、以て、暗、の、ん、中、以、其
す、と、又、扁鵲、告げ、る、所、扁鵲、其、の、鍼、を、持、し
其、を、さ、り、し、君、初、の、の、れ、を、謀、て、其、の、の、
れ、を、敗、り、斯、く、て、秦、國、の、政、事、も、推、し、其、の、
一、以、扁鵲、の、言、を、易、の、名、論、を、度、り、皆、常、柄、以、扁鵲、の
言、を、信、く
思、は、れ、彼、乃、扁鵲、を、願、し、候、也

右象山先生文久二年戊午十一月九日

真田公に上る書也 文久二年戊午月
真田公に上る書也

明治四十二年四月十一日

二十五番 黙堂主田草子



象山先生上書



謹而奉言上候

今般

公義よき

勅書に寫し置て候

仰出ぬ此度

勅書に通被

仰出候に銘に策畧に力

間度

思召間見込巨細お認来二月

御上深前近より可ら差出の義は右に

仰出候書に

勅書に寫し置て用書矢澤侍監より相示し

御見込被

仰出候に考右に候所は弟畧見込に第

子逸書言と仰達し候所は右

御尋ふ末果、お尋て、私儀より能及り

所、其存惟私儀の能及り所、其存のみ

ある

所家、左衛門佐様楠之守に雖し

所、第自公を立ち、間敷惟、左衛門佐様

楠之の、こゝろに座孔明孫子太公望に、

力、存ひ難く、惟孔明孫子太公望の、

を、生孔子、聖朝に、雖も、恐らく、書畧の、出

所、そ有、は、左衛門敷書、其故、に、候、所、

子、其子、之、辭、王、決、け、り、候、所、に、及、

所そ有は河敷事其故は

孟子齊王、汝れは小國を大敵する

強敵を一つも海内の地の方千里あるもの

九一七商賈ありその一をとりて一をもて

いをも服んよその都の小國にして楚の大國

は押領せんよその思ひ人蓋し亦其存す

る水は今此大地の周圍を獨り里法

を以て量るは五千四百餘里にして其面積

九百二十七萬九千九百六十方里有り然る者

大凡其四分の三を海にして人類の住居するま

陸地は其四分の一を以て今外蕃測量の

學の精を極め五世界の總數をも細明に

積を二百二十七萬九千九百六十方里にして

の半を以て然るは本邦の面積を獨り

里法を以て量るは七萬九千九百六十方里に

五世界の二百分の一に過ぎざるなり本邦は

盡く膏腴の地外國を過半不毛の地と見

成しは猶万一の如き過きん強大有聲

の國に比較して其大小の懸隔惟都と

楚一のいなりは且上外國の學術格致の

の三大發明を以て月日は長進天文地

理器械の學船銃砲城堡の制一にして其

精を以て其國に且蒸氣機成りて其

海を以て蒸氣船と云ふ陸地を以て車馬

行軍近き當年より五十年前獨りて同板

相成新地圖を以て披覽して魯西並

佛蘭西英吉黎獨りの富を以て德禮歲索偏主

佛蘭西英吉黎獨りの富を以て德禮歲索偏主

よる益、狭小の體、地理を詳観す。

尚印度彌利堅等、頗る廣大の領地あり、而

諸島、大抵其所有、其日南諸島も亦その

其近、本邦より較寬廣く、其氣味も恐

らく、本邦より遙く、多うて、其存をよ

年久く航海貿易の利を營み、其國力を盛

し、艦軍の用を盡し、行軍を以て敵を以て

一國の所拒拒、當今の所安て、實を覺

束を多し、終を況や、外の大國を併せ

一齊、其拒拒の自由、其世に、其果

つれを、其世に、其果、其本

術技巧は、其各國の勢力所作、其安

實、天運のま、其世に、其國

天運を、其世に、其國

其手、其國の、其は、其言

其、其又、其技巧を、其互、其環

故、其、其、其、其、其、其、其

始、其、其、其、其、其、其、其

遠、其、其、其、其、其、其、其

其、其、其、其、其、其、其

所、其、其、其、其、其、其、其

御、其、其、其、其、其、其、其

其、其、其、其、其、其、其

其、其、其、其、其、其、其

其、其、其、其、其、其、其

公武が全體より一國を是をば為定 一其の
所勵精を遊古代

神聖のおのきをを令て人信ひ人而て善を
為すの

御規模は徳力則外善の長すの所を悉く
この集外國し進く 日本領をこの向ふ

この國力の強盛し諸蕃の上出て銃砲の所修
徑は彈藥の所貯蓄し諸蕃の上出て軍船の

數は諸蕃の上出て將材異能の士の衆多し
諸蕃の上出て兵卒の鈍熟し諸蕃の上出て

城郭の堅固しし諸蕃の上出て舟の力多し並
てこの國術の獨心を以て包藏の國より自然に奉

畏服又
御徳化を奉慕ふよよを其感をも仰めて

奉臣は類可有は是其本なるの説を
尚書し力を向して徳を度々徳以同一

義を以て見え古列馬兵法も物を見
與に併しすしれを而之しし有り其國

力敵國に併しき申存し兵を攝て其徳
其義の如く超過し其志を獨り我

法し難出果是則ち天下の正理明理常理
に理は存し已むしあく此道理をもつ

仰見込はカ
仰立

天朝

大朝の共は其本なる及此切迫し其時節

分毫の 以過舉し不き方任極有るを

奉願し我ら度此段謹お奉申上居ら

尚書の力を向て徳を度る徳行一々
義を量る一々見え古列馬兵法の物を見
與つ併うすしれを兩之しり有り其國
力敵國の併いき申存ん兵を構て其徳
其義の如彼の超過し其志を揚我
決し難出果是則ち天下の正理明理
公理の存り已むるを此道理とせん
所見込被力
仰立

天朝

大朝の共々其存る力反此切迫し而時節
分毫の 而過舉なき存極有る在
奉頌の我の序此段謹而奉申言信以上

十二月廿五日

伊東修理

右象山先生文久二壬戌年十二月廿五日

真田公に上る書也

昔年老女生を一々賸置せし
三行讀て千点を合す惜哉

剛治四十二年四月十六日

六十九卷 黙堂 三田 草子 成

